



Title	臨床哲学のメチエ 第20号 目次
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 2013, 20
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24935
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

臨床哲学のメチエ

臨床の知のネットワークのために Vol.20 2013 春号

巻頭言

宮沢賢治に『猫の事務所』という作品があります。猫が事務所で地理や歴史を調べて書記をするという設定なのですが、そこに竈猫(かまねこ)という猫がいます。この竈猫は寒がりなため、どうしてもかまどの中で寝る癖があり、身体がすす汚れています。そのため、周りからは嫌われています。ついに、竈猫は自分の仕事をとられ、その存在をも無視されるといういじめにあいます。ここで突然、獅子が登場して、このいじめの様子を見て憤り、事務所を廃止します。

いわば正義の裁きが行われた訳ですが、このような事態に対して、賢治と思われる立場のものによる次のような文章でこの話は閉じられています。

「ぼくは半分獅子に同感です」。

半分同感するという姿勢、これが事象へ注意のまなざしを向け続けることの、そして哲学をすることの、はじまりのように私は思うのです。(おおきた たけとし)

Contents

テーマ1 教育／成長	3
相互評価の可能性／村瀬智之	4
子どもと大人の対話／渡邊文	9
らくせいからだらくか／behblues	13
教育の自律性／自律への教育、そして「教養」について／荻野亮一	16
超えるということ／正置友子	24
 テーマ2 さまざまな対話	29
歯医者さんカフェー地域と対話ということ	30
哲学な対話のかたち、一例—ある日の哲学カフェから／鈴木径一郎	33
ガイガーカウンターと喜劇／辻明典	36
 Remarks on Hawaii p4c／中川雅道	42